

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 2 日

江別市立対雁小学校

1 本年度の重点教育目標

自ら学び 高め合い ねばり強い子どもの育成

○共感的な人間関係の育成～互いに認め合い、励まし合い、支え合う風土の醸成～

○諦めずにやり抜く力の獲得～自己指導力を高める教育活動の推進～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	1. 子どもたちは、進んでよく学び、よく考えている。	B	全学級での学習規律の定着を基盤として、見通しを持って（ねらいの明確化）課題に向き合い、学んだことを活用して主体的に問題を解決しようとする子どもを育成する授業改善に取り組む。	A	A
	2. 子どもたちは、思いやりがあり、助け合っている。	A	「ふれあい集会」や「あいさつ運動」等の充実を通して、子どもたちが自発的に思いやりを形にする機会を増やし、互いに助け合うことの心地よさや成就感を味わえる教育活動を展開する。	A	A
	3. 子どもたちは、粘り強く、やり通している。	B	「自分からやってみよう やりぬこう」を合言葉に、学習や行事などあらゆる場面で子どもたちの意識向上を図るとともに、最後までやり遂げた過程を価値付けることで、自己肯定感と次への意欲（粘り強さ）を育む。	A	A
	4. 子どもたちは、いつも元気で、たくましく育っている。	A	休み時間のグラウンドや体育館での遊びの推奨を継続していく。また、保健の授業を充実させ、健康な生活を送るための知識・技能を身に付けるとともに、保健だよりで「十分な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動」について家庭の協力を呼び掛けている。	A	A
	5. 互いに認め合い、励まし合い、支え合う風土の醸成し、共感的な人間関係の構築を図る。	A	行事や学習のめあてを通じて「つながり」を意識させるとともに、「認め合い・励まし合い」が生まれる具体的な場面（対話的な学び、称賛の機会等）	A	A

			を意図的に創出する。これにより、互いの存在を尊重し、支え合える集団づくりの実践を深めていく。		
	6. 自己指導力を高める教育活動の推進し、諦めずにやり抜く力の育成を図る。	B	子どもが自ら目標を立て、その達成に向けたスモールステップへの支援を徹底する。「できた」という実感を励ましによって強化し、困難な場面でも自分を律して粘り強く取り組む自己指導力を養う。	A	A
教育課程・学習指導	7. 育成すべき資質・能力が、確実に身につく教育課程を編成する。	A	重点目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントに全職員で取り組み、各教科や活動で育成すべき資質・能力が確実に身につく教育課程を編成する。	A	A
	8. 一人一人の教育的ニーズに応じた支援方法の充実を図る。	A	特別支援教育コーディネーターと生徒指導コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた、支援方法や指導体制の充実を図る。	A	A
	9. 「対話」により他者の考えと価値交換を行う授業改革の推進を図る。	B	ICT を効果的に活用し、互いの考えを可視化（見える化）することで、多様な意見を比較・検討する対話の場を意図的に設定する。併せて、実践的な校内研修を通して教員の ICT 活用スキルを高め、深い学びを実現する授業改革を推進する。	A	A
	10. 自由進度学習等を手段として、自己調整力を伸ばし、自立した学習者の育成を図る。	A	これまでの研究成果を基盤に、単元の特性を見極めた上で自由進度学習を計画的に導入する。学習の見通しを立て、進度や方法を自ら選択する場面を構成することで、自己調整を図り、主体的に学び進める「自立した学習者」を育成する。	A	A
	11. 本に親しむ（朝読書等）、本で調べるなど、読書活動の充実を図る。	A	図書整備ボランティア、読み聞かせ隊、図書館司書と連携を図り、絵本の読み聞かせ、本で調べる学習など、読書活動の充実を図る。	A	A
	12. 考え議論する道德の授業を要とした、道德性の涵養を図る。	A	「努力と強い意志」「相互理解・涵養」「集団生活の充実」「生命の尊さ」を重点に、考え議論する道德の授業を要とした、全教育活動を通した道德性の涵養を図る。	A	A
	13. 適切な学校行事の実施と振り返りを行い、自主的・実践的な集団活動の充実を図る。	A	学校行事において「活動の振り返りと、次の目標を設定する」取組を通して、自主的・実践的な集団活動の充実を図る。	A	A
生徒指導	14. 自己肯定感、自己有用感を高める生徒指導の充実を図る。	A	ポジティブ行動支援（PBS）の考え方を共通理解し、全学級で組織的・計画的に展開する。児童の小さな努力や肯定的な行動を具体的に価値付け、称賛を積み重ねることで、「自分は大	A	A

			切な存在である（自己肯定感）」「人の役に立っている（自己有用感）」という実感をもたせる。		
	15. 問題行動の共通理解を図り、早期解決を図る。（いじめ対応を含む）	A	学校いじめ防止基本方針の浸透と、いじめの積極的な認知により「いじめを見逃さない」「嫌な思いをした児童に寄り添う指導」を全職員で行う。問題行動発生時は、指導の方向性を全教職員間、関係機関と共通理解を図り、迅速な対応により、早期解決を図る。	A	A
健康安全 教育	16. 危険を予知、回避し、「自分の命は自分で守る」力を育む。	A	避難訓練や各種安全教室に加え、日常的な指導や振り返りを通して「自分の命は自分で守る」意識の定着を図る。	A	A
	17. すすんで運動・健康の増進に努める態度を育成する。	A	新体力テストの結果を分析した「体力向上プラン」に基づき、運動能力を高める指導を組織的に実践する。体育の授業では、ICT を効果的に活用し「十分な運動量」と「運動の楽しさ」を両立させ、進んで体を動かそうとする態度を育む。	A	A
小中一貫	18. 小中一貫教育に向けた小・小連携、小・中連携を積極的に推進する。	A	3校合同で教育課程部会等の5つの部会を設定し、中央中校区の目指す子ども像の実現に向けた具体的な取組を推進する。また、6年生部活動体験、ふれあい祭りへの中学生の参加等、児童・生徒間の交流を充実させていく。	A	A
	19. 子どもの様子を積極的に発信し、保護者・地域と課題を共有し、地域全体で学びを支える連携協働の活性化を図る。	A	個人情報の保護に留意し、学校のホームページで、子どもの活動について積極的に発信していく。一斉公開日や学習支援依頼等、保護者や地域の方が来校する機会を積極的に呼びかけていく。	A	A

【評価項目の設定、達成状況改善及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・「保護者アンケート」や「教職員による学校評価」の結果、および日常の児童の様子を鑑みると、達成状況の自己評価と改善の方策は妥当であると判断する。
- ・ICT を活用した学習の重要性は高まっているが、同様に「書くこと」も学力や思考力の向上に不可欠である。今後は、ICT の活用と「書くこと」を取り入れた学習をバランスよく組み合わせた授業構築に期待したい。
- ・AI 技術の発展に伴い、画一的な反応が増え、個性が埋没していく懸念がある。変化の激しい時代だからこそ、一人ひとりの個性を尊重し、伸ばしていく教育活動を継続して推進してほしい。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない